

# 大人のチカラ

20

～子どもたちの未来のために～

## 読書で深める家族の絆②

### 図書館を利用し 本との出会いを広げる

**親**は「わが子を本好きにしたい」と考えるもの。しかし忘れてはならないのは、子どもの読書は教育ではなく、楽しいものであるということです。「こうあるべき」という形にこだわらず、子ども自身が本と出会い、読書を楽しむ姿勢を大切にしましょう。

#### とっておきの一冊は 人生の宝物

「また同じ本読んで。もっといろいろな本を読めば？」とお子さんに言ったことはありませんか？

ときに何度も読みたくなる一冊と出会えたことはとても幸せなこと」と言うのは香川県立図書館児童資料担当の藤原庸子さん。とっておきの本は人生において何冊も出合えるものではありません。

ません。

特定のシリーズやジャンルの本ばかり読むのも親としては気になるところですが、これは好きな本の傾向がわかっているということ。

「傾向はそのままに、違う作家の本や、同じ作家の別のシリーズをさりげなく勧めてみましょう。子どもの普段の様子から『マイブーム』を探り、関連する本を勧めるのも読書の幅を広げるときかけになります。

#### こだわりを捨てて ステキな本と出会う

大人は本を最後まで読ませることにこだわりがち。「本にも相性があります。少し読んで『あれ？ おもしろくないや』と感じたなら、別の本に移ればいいのです。世の中にはたくさん本があります。一冊に固執せず、新しい本をどんどん手に取るほうがステキな本と出合える可能性が広がります。

本に書かれた「対象年齢」もあくまで参考程度に考えましょう。子どもの興味や実状に合った本を選ぶことが何より大切です。必ずしも物語や小説を選ぶ必要はなく、図鑑や漫画を読むことも立派な読書です。

いろいろな本に触れることができ、本選びのアドバイスも得られるのが



図書館。「図書貸出カードは0歳から作ることができ、自分の貸出カードがあると、本を借りてみたいという気持ちが高まるもの。図書館には子どもの本に関する情報が満載です。親子で気軽に足を運んでください」と藤原さん。図書館通いを親子で触れ合うひとときにしましょう。